

学校番号	15	学校名	東部特別支援学校伊東分校	校長名	佐々木 雅則
------	----	-----	--------------	-----	--------

1 目指す学校像

(1) 教育目標「つたえあう つくりあう たかめあう人」

【体】 つくること、はたらくことを楽しむ人

【知】 豊かなコミュニケーションができる人

【徳】 生活する力がつき、感性や生活の質を高めていく人

教育目標の具現化に向けて、〈守る〉、〈育む〉、〈つなぐ〉、〈高める〉の4つの視点を掲げ、学校づくりを進める。

(2) 目標具現化の柱

ア 〈守る〉安全で安心な教育環境

(ア) 安全な学校環境の整備

(イ) 人権を尊重する教育

イ 〈育む〉確かな学力や豊かな心と生きる力

(ア) 学び・授業の充実

(イ) 特別支援教育の専門性の向上

ウ 〈つなぐ〉児童生徒の学びと生活を支える連携

(ア) 「共生・共育」の推進

(イ) 地域との連携、ならびに地域資源の活用

(ウ) 特別支援学校のセンター的取組の充実

エ 〈高める〉教職員が互いに支えあう職場

(ア) 教職員の資質向上

(イ) 業務改善の推進

2 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

ア 〈守る〉安全で安心な教育環境

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	安全な学校環境の整備			
	(ア) 予防的な安全確認によるリスク管理	・月1回、校内の安全を複数職員で予防的視点からチェックし、必要箇所には緊急度に応じた対策を講ずる。	・危険個所を把握し、児童生徒の安全を守るため対策を取ることができたと答える教職員90%以上。	保健安全課 企画会
	(イ) 発災時の初動体制共有と一次避難後の対応整備	・地震、火災想定を年2回ずつ、土砂災害想定1回の訓練を実施する。 ・一次避難後の職員対応体制を整備する	・全教職員が初動体制を理解し、落ち着いて児童生徒の避難誘導に当たることができたと答える教職員100%。	防災危機管理課
イ	人権を尊重する教育			
	一人一人の人権意識向上	・学期1回ずつ、教員人権チェックまたはグループワークを実施。	・体罰等不適切な指導を未然に防ごうと意識したと答える教員100%。	生徒指導課

様式第1号

イ〈育む〉確かな学力や豊かな心と生きる力

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
	学び・授業の充実			
ア	(ア)児童生徒が主体的に学べる授業づくり	・児童生徒の実態に合わせ、興味関心がある授業づくりを行う。 ・教員間が意思疎通を図ることで、授業を構築する。	・授業が楽しいと答えた児童生徒90%以上。	研修課 自立活動課
	(イ)ICTを活用した授業づくり	・情報機器の活用事例を紹介し、効果的な利用を促進する。	・情報機器を活用できたと答える教員が80%以上。	情報教育課
	特別支援教育の専門性の向上			
イ	個の課題に応じた専門性の高い指導	・児童生徒を、多角的に実態把握するための研修を行う。 ・子ども理解に基づく課題設定や支援に焦点をあてた授業研究を年2回実施。	・一人一人の児童生徒の「良さ」に着目して具体的指導方法を検討して授業を実践できたと答える教員80%以上。	研修課 自立活動課

ウ〈つなぐ〉児童生徒の学びと生活を支える連携

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
	「共生・共育」の推進			
ア	学校間交流の推進	・交流校と打ち合わせを行い、計画的に交流を行う。 ・直接交流、間接交流、オンラインによる交流など、取り入れ、年間通して、交流活動ができるように工夫する。	・小学部各学年において、伊東小との直接交流の回数が年間1回以上。 ・中学部で伊東北中との共同学習の回数が年間4回以上。	各学部 共生・共育 推進委員会
	地域との連携、ならびに地域資源の活用			
イ	地域の分校理解推進と新たな地域資源の活用	・岡地区の地域資源について教職員が知る機会を設ける。 ・岡地区の方と、児童生徒が協働活動する場面を設定する。	・岡地区にある地域資源を活用して学ぶ機会を年間2回以上。	学部・学年 地域連携・ 進路課
	特別支援学校のセンター的取組の充実			
ウ	児童生徒の学びを支える連携の充実	・幼児保育教育機関、小中学校、高等学校の支援ニーズを確認し専門的な支援を行う。 ・教育相談に同行することによって、地域連携の内容を知る。	・見学会等を通じセンター的役割の説明が行われた回数が年間2回以上。 ・教育相談に同行する教員、年間2人以上。	地域連携・ 進路課

エ〈高める〉教職員が互いに支えあう職場

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
	教職員の資質向上			
ア	個々の強み生かした配置と職員相互の理解促進	・教職員一人一人の強みを考慮した役割分担する。 ・長期休業等を活用し、相互理解を目的に年2回のグループワーク実施。	・学校経営に参画できたと答える教職員80%以上。 ・グループワークの効果があったと答える教職員80%以上。	管理職 企画会
	業務改善の推進			
イ	会議等の時間管理徹底	・会議時間は事前提示の上厳守、掲示板活用、資料事前配布、議題予告などで内容を精選する。	・職員会議、学部会、分掌課会60分を超えることがないよう、時間を意識したと答える教職員100%。	企画会 教務課

様式第1号